



## 2026年3月期 第3四半期決算短信〔IFRS〕（連結）

2026年2月9日

上場会社名 ユキグニファクトリー株式会社  
 コード番号 1375 URL <https://www.yukiguni-factory.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 湯澤 尚史  
 問合せ先責任者 (役職名) 経営企画本部 IR・広報部長 (氏名) 米山 正芳 TEL 025 (778) 0162  
 配当支払開始予定日 -  
 決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

(百万円未満切捨て)

### 1. 2026年3月期第3四半期の連結業績 (2025年4月1日～2025年12月31日)

#### (1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	収益		営業利益		税引前四半期利益		四半期利益		親会社の所有者に帰属する四半期利益		四半期包括利益合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	39,380	△0.5	4,309	△0.0	4,238	2.4	2,617	△2.6	2,621	△2.6	2,679	△0.3
2025年3月期第3四半期	39,568	10.9	4,311	19.4	4,139	27.3	2,686	25.8	2,689	26.2	2,688	25.7

	基本的1株当たり四半期利益		希薄化後1株当たり四半期利益	
	円	銭	円	銭
2026年3月期第3四半期	65	73	65	72
2025年3月期第3四半期	67	43	67	42

(参考)

	売上収益		コア営業利益		コアEBITDA		コアEBITDAマージン	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	%	
2026年3月期第3四半期	27,463	0.9	3,032	△1.8	4,731	△2.6	17.2	
2025年3月期第3四半期	27,216	12.0	3,088	39.8	4,856	26.0	17.8	

#### (2) 連結財政状態

	資産合計		資本合計		親会社の所有者に帰属する持分		親会社所有者帰属持分比率	
	百万円		百万円		百万円		%	
2026年3月期第3四半期	39,812		14,542		14,542		36.5	
2025年3月期	37,868		12,525		12,366		32.7	

### 2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
2025年3月期	-	3.00	-	12.00	15.00	
2026年3月期	-	4.00	-			
2026年3月期 (予想)				12.00	16.00	

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2026年3月期の連結業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	収益		営業利益		税引前利益		当期利益		親会社の所有者に帰属する当期利益		基本的1株当たり当期利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	51,970	△2.2	3,270	35.1	3,070	41.1	2,010	34.4	2,010	33.8	50.39	

(参考)

	売上収益		コア営業利益		コアEBITDA		コアEBITDAマージン	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	%	
通期	38,880	4.8	3,730	△3.3	6,220	0.4	16.0	

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期3Q	39,910,700株	2025年3月期	39,910,700株
② 期末自己株式数	2026年3月期3Q	27,878株	2025年3月期	6,666株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期3Q	39,876,719株	2025年3月期3Q	39,890,931株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

（その他特記事項）

- (1) 当社グループは、国際会計基準（以下「IFRS」という。）を適用しております。
- (2) コア営業利益＝営業利益－IAS第41号「農業」適用による影響額－その他の収益及び費用－一時的な収益及び費用
- (3) コアEBITDA＝コア営業利益＋減価償却費及び償却費
- (4) コアEBITDAマージン＝コアEBITDA÷売上収益
- (5) IAS第41号「農業」適用による影響額とは、IAS第41号「農業」を適用し、きのこの生産工程である仕込みから収穫時までのきのこを生物資産として、売却費用控除後の公正価値で測定するものであり、当該公正価値の変動による利得及び損失を影響額としております。
- (6) その他の収益及び費用とは、主に減損損失、固定資産除却損等となります。
- (7) 一時的な収益及び費用とは、通常の営業活動では発生しない一過性の収益及び費用となります。なお、前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間においては、一時的な収益及び費用の発生はありません。
- (8) コア営業利益、コアEBITDA及びコアEBITDAマージンはIFRSにより規定された指標ではなく、投資家が当社グループの業績を評価する上で、当社グループが有用であると考えられる財務指標であります。当該財務指標は、非経常的損益項目及び競合他社に対する当社グループの業績を適切に示さない項目の影響を除外してあります。なお、コア営業利益、コアEBITDA及びコアEBITDAマージンは、IFRSに準拠して表示された他の指標の代替的指標として考慮されるべきではありません。当社グループにおけるコア営業利益、コアEBITDA及びコアEBITDAマージンは、同業他社の同指標あるいは類似の指標とは算定方法が異なるために、他社における指標とは比較可能でない場合があり、その結果、有用性が低下する可能性があります。

（決算補足説明資料（決算説明資料）の入手方法について）

決算補足説明資料（決算説明資料）は、T D n e t で開示するとともに、2026年2月9日付にて当社ウェブサイトに掲載しております。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期の財政状態の概況 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 要約四半期連結財政状態計算書 .....	5
(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 要約四半期連結持分変動計算書 .....	9
(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	10
(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	11
(継続企業の前提に関する注記) .....	11
(セグメント情報) .....	11
(1株当たり利益) .....	12
(重要な後発事象) .....	12

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間（2025年4月1日から2025年12月31日）における国内経済は、雇用・所得環境の改善が続いた一方で、物価上昇の長期化や為替変動の影響を受け、家計への負担が継続いたしました。また、地政学リスクの長期化や米国の通商政策の動向、金融資本市場の変動等により、経済の先行きにつきましては引き続き不透明な状況が続いております。

当社グループを取り巻く事業環境におきましても、世界的な異常気象や円安の影響による原材料価格の高止まりに加え、物流費や包装資材コストの上昇を背景に食品価格の改定が相次いでおり、消費者の節約志向は継続しております。

このような経済環境の中、当社グループでは、中長期的な成長の確保および事業基盤の強化が一層重要になると認識しております。その一環として、当社グループは、2025年11月1日付で組織体制を変更いたしました。本組織改編は、2023年12月に公表した中期経営計画に基づき、中長期的な成長に向けた研究開発機能の強化を目的としております。具体的には、これまでの「研究開発室」を「研究開発本部」へ格上げし、他本部と同列に位置づけることで、経営資源の配分の最適化および全社的な連携強化を進めております。併せて、既存キノコの研究開発を深化させる「キノコ研究所」と、機能性素材や新技術の研究開発を担う「ミライ研究所」を新設し、研究領域の専門性向上と研究開発体制の充実を図っております。

当社グループは、引き続き、キノコを軸とした研究開発を着実に推進することで、新技術・新製品の創出を進め、付加価値の向上を図り、持続的な成長の実現に取り組んでまいります。

当第3四半期連結累計期間の収益は、39,380百万円（前年同期比0.5%減）、このうち、売上収益は27,463百万円（同0.9%増）となりました。また、売上総利益は、11,277百万円（同1.6%増）となりました。販売費及び一般管理費は、7,039百万円（同4.7%増）となりました。

以上の結果、営業利益は、4,309百万円（同0.0%減）、親会社の所有者に帰属する四半期利益は、2,621百万円（同2.6%減）となりました。なお、当第3四半期連結累計期間においては、IAS第41号「農業」の適用に関する公正価値変動による利得が、収益に11,917百万円（前年同期比3.5%減）、売上原価に10,676百万円（同2.9%減）、それぞれ含まれております。

[2026年3月期第3四半期連結累計期間業績]

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2024年4月1日 至2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2025年4月1日 至2025年12月31日)	増減率 (%)
売上収益	27,216	27,463	0.9
公正価値変動による利得	12,351	11,917	△3.5
収益合計	39,568	39,380	△0.5
営業利益	4,311	4,309	△0.0
税引前四半期利益	4,139	4,238	2.4
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	2,689	2,621	△2.6

当第3四半期連結累計期間における事業セグメント別の売上収益の状況は、次のとおりであります。

〔茸事業〕

① まいたけ

社名変更に伴い商品パッケージを一新するとともに、当社の強みである豊富な製品ラインアップに、大株を大ぶりにカットした利便性の高い製品や、お得感を加えた新設計製品等の更なる拡充を図り、消費者の皆様のニーズを着実に捉えた幅広い商品提案や販促企画提案に努め、店頭シェアの拡大及びプレミアムブランド戦略の強化に取り組んでおります。また、季節行事に応じた売り場展開や調理メニュー提案等により、更なる需要拡大を推進しております。前年同期に比べ販売単価は上回りましたが、販売量は減少いたしました。この結果、当第3四半期連結累計期間においては、まいたけ事業の売上収益は、14,600百万円（前年同期比0.4%減）となりました。

② エリンギ

定番製品は小型パックから大型パックまで各種量目を取り揃え、お客様ニーズに応じた多様な商品提案に取り組んでおります。また、利便性が高いカットエリンギの店頭詰め放題企画の実施等、お買い得感と楽しさを訴求した集客企画提案を推進し、需要拡大を図っております。前年同期に比べ販売量、販売単価はいずれも上回りました。この結果、当第3四半期連結累計期間においては、エリンギ事業の売上収益は、2,923百万円（同3.7%増）となりました。

③ ぶなしめじ

1株製品を中心に販売施策を組み立て、安定した価格運営を推進するとともに、青果市況と市場の動向を注視し、需給バランスに応じて量目の異なる2株製品を活用する等、柔軟な製品投入に取り組んでおります。前年同期に比べ販売量は減少いたしました。この結果、当第3四半期連結累計期間においては、ぶなしめじ事業の売上収益は、5,729百万円（同5.1%増）となりました。

④ その他の茸

マッシュルームは、引き続き生産状況の安定化に注力するとともに、販促企画の実施による販売強化及び新たな需要創造に取り組んでおりますが、前年同期に比べ売上は低調に推移いたしました。また、はたけしめじの売上も前年同期に比べ低調に推移いたしました。本しめじ及び当社海外グループ会社で扱うエキゾチック・マッシュルームの売上は好調に推移いたしました。この結果、当第3四半期連結累計期間においては、その他の茸事業の売上収益は、3,922百万円（同3.3%減）となりました。

〔その他〕

その他の売上収益は、主に健康食品及び培地活性剤、また、2025年2月に販売を開始いたしました新規事業製品「キノコのお肉」シリーズの販売によるものであります。当第3四半期連結累計期間においては、培地活性剤の売上は前年並みで推移いたしました。健康食品の売上は好調に推移いたしました。「キノコのお肉」シリーズは、積極的な販促施策の実施により製品の認知度向上に努め、販売強化に取り組んでおります。この結果、その他の売上収益は、287百万円（同25.0%増）となりました。

各事業セグメント別売上収益は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2024年4月1日 至2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2025年4月1日 至2025年12月31日)	増減率 (%)
茸事業	26,986	27,175	0.7
まいたけ	14,661	14,600	△0.4
エリンギ	2,819	2,923	3.7
ぶなしめじ	5,450	5,729	5.1
その他の茸	4,055	3,922	△3.3
その他	229	287	25.0
売上収益	27,216	27,463	0.9

(2) 当四半期の財政状態の概況

① 財政状態の状況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末(2025年12月31日時点)の資産合計は、39,812百万円(前連結会計年度末比1,943百万円増)となりました。流動資産は、13,456百万円(同1,955百万円増)となりました。これは主に、現金及び現金同等物が1,293百万円、棚卸資産が275百万円減少した一方、営業債権及びその他の債権が2,089百万円、生物資産が1,369百万円増加したこと等によるものであります。非流動資産は、26,355百万円(同12百万円減)となりました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、25,269百万円(同74百万円減)となりました。流動負債は、10,214百万円(同712百万円増)となりました。これは主に、従業員給付に係る負債が571百万円、その他の負債が428百万円それぞれ減少した一方、営業債務及びその他の債務が1,621百万円増加したこと等によるものであります。非流動負債は、15,054百万円(同786百万円減)となりました。これは主に、借入金が837百万円減少したこと等によるものであります。

(資本)

当第3四半期連結会計期間末の資本合計は、14,542百万円(同2,017百万円増)となりました。これは主に、利益剰余金が1,982百万円増加したこと等によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末に比べ1,293百万円減少し、2,609百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は、1,702百万円(前年同期は2,923百万円の獲得)となりました。これは主に、営業債権及びその他の債権の増加額2,041百万円、法人所得税の支払い1,514百万円、生物資産の増加額1,361百万円、従業員給付に係る負債の減少額572百万円があった一方、税引前四半期利益4,238百万円、減価償却費及び償却費1,706百万円、営業債務及びその他の債務の増加額1,339百万円の計上があったこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、1,262百万円(前年同期は1,484百万円の使用)となりました。これは主に、苺事業に係る設備更新等に伴う有形固定資産の取得による支出1,298百万円があったこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、1,754百万円(前年同期は1,521百万円の使用)となりました。これは主に、短期借入金の借入による収入1,900百万円があった一方、短期借入金の返済による支出1,900百万円、長期借入金の返済による支出844百万円、配当金の支払額による支出638百万円、リース負債の返済による支出170百万円があったこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、2025年5月9日に公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

なお、当該業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 要約四半期連結財政状態計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度末 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間末 (2025年12月31日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	3,903	2,609
営業債権及びその他の債権	2,490	4,580
棚卸資産	1,839	1,563
生物資産	3,106	4,476
未収法人所得税	14	12
その他の資産	146	215
流動資産合計	11,501	13,456
非流動資産		
有形固定資産	17,784	17,706
投資不動産	94	94
のれん及び無形資産	5,932	6,004
使用権資産	210	221
退職給付に係る資産	307	319
その他の金融資産	186	172
繰延税金資産	1,785	1,785
その他の資産	65	50
非流動資産合計	26,367	26,355
資産合計	37,868	39,812

(単位：百万円)

	前連結会計年度末 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間末 (2025年12月31日)
負債		
流動負債		
営業債務及びその他の債務	2,886	4,508
未払法人所得税	1,370	1,495
従業員給付に係る負債	2,512	1,941
1年内返済予定の長期借入金	1,422	1,422
リース負債	141	160
引当金	193	0
その他の金融負債	105	244
その他の負債	869	441
流動負債合計	9,502	10,214
非流動負債		
借入金	15,435	14,597
リース負債	161	186
繰延税金負債	152	162
引当金	21	21
その他の金融負債	69	86
その他の負債	0	0
非流動負債合計	15,841	15,054
負債合計	25,343	25,269
資本		
資本金	100	100
資本剰余金	△6,067	△5,900
利益剰余金	18,334	20,317
自己株式	△7	△30
その他の資本の構成要素	6	56
親会社の所有者に帰属する持分合計	12,366	14,542
非支配持分	159	-
資本合計	12,525	14,542
負債及び資本合計	37,868	39,812

(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書

(要約四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2024年4月1日 至2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2025年4月1日 至2025年12月31日)
収益		
売上収益	27,216	27,463
公正価値変動による利得	12,351	11,917
収益合計	39,568	39,380
売上原価 (*1)	28,473	28,103
売上総利益	11,094	11,277
販売費及び一般管理費	6,721	7,039
その他の収益	79	139
その他の費用	141	68
営業利益	4,311	4,309
金融収益	9	130
金融費用	181	201
税引前四半期利益	4,139	4,238
法人所得税費用	1,452	1,621
四半期利益	2,686	2,617
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	2,689	2,621
非支配持分	△3	△3
1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益 (円)	67.43	65.73
希薄化後1株当たり四半期利益 (円)	67.42	65.72

経営者は同業他社との比較可能性を勘案し、「材料費、人件費等」の情報は財務諸表利用者にとって有用であると考え  
ていることから、要約四半期連結損益計算書に注記として自主的に開示しております。「材料費、人件費等」は、IAS第  
41号「農業」に基づき認識した公正価値変動による利得を含まない当社グループが販売した製品の製造原価及び商品の仕  
入原価であります。

(*1) 売上原価の内訳		
材料費、人件費等	17,472	17,427
公正価値変動による利得	11,000	10,676
合計	28,473	28,103

(要約四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2024年4月1日 至2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2025年4月1日 至2025年12月31日)
四半期利益	2,686	2,617
その他の包括利益 (税効果控除後)		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する 資本性金融資産	0	△0
純損益に振り替えられることのない項目合計	0	△0
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の外貨換算差額	0	62
純損益に振り替えられる可能性のある項目合計	0	62
その他の包括利益 (税効果控除後) 合計	1	62
四半期包括利益	2,688	2,679
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	2,691	2,669
非支配持分	△3	10

(3) 要約四半期連結持分変動計算書

前第3四半期連結累計期間 (自2024年4月1日 至2024年12月31日)

(単位：百万円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の 資本の 構成要素	親会社の 所有者に 帰属する 持分合計	非支配持分	資本合計
2024年4月1日残高	100	△6,067	17,405	△17	25	11,446	164	11,610
四半期利益	-	-	2,689	-	-	2,689	△3	2,686
その他の包括利益	-	-	-	-	1	1	-	1
四半期包括利益合計	-	-	2,689	-	1	2,691	△3	2,688
自己株式の取得	-	-	-	-	-	-	-	-
株式報酬取引	-	△3	-	10	-	7	-	7
剰余金の配当	-	-	△518	-	-	△518	-	△518
支配継続子会社に対する 持分変動	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の資本の構成要素から 利益剰余金への振替	-	-	0	-	△0	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	3	3
所有者との取引額等合計	-	△3	△518	10	△0	△511	3	△508
2024年12月31日時点の残高	100	△6,070	19,576	△7	27	13,626	164	13,790

当第3四半期連結累計期間 (自2025年4月1日 至2025年12月31日)

(単位：百万円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の 資本の 構成要素	親会社の 所有者に 帰属する 持分合計	非支配持分	資本合計
2025年4月1日残高	100	△6,067	18,334	△7	6	12,366	159	12,525
四半期利益	-	-	2,621	-	-	2,621	△3	2,617
その他の包括利益	-	-	-	-	48	48	14	62
四半期包括利益合計	-	-	2,621	-	48	2,669	10	2,679
自己株式の取得	-	-	-	△32	-	△32	-	△32
株式報酬取引	-	△2	-	9	-	7	-	7
剰余金の配当	-	-	△638	-	-	△638	-	△638
支配継続子会社に対する 持分変動	-	99	-	-	1	100	△170	△69
その他の資本の構成要素から 利益剰余金への振替	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	69	-	-	-	69	-	69
所有者との取引額等合計	-	167	△638	△22	1	△492	△170	△662
2025年12月31日時点の残高	100	△5,900	20,317	△30	56	14,542	-	14,542

(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2024年4月1日 至2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2025年4月1日 至2025年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益	4,139	4,238
減価償却費及び償却費	1,775	1,706
支払利息	168	153
固定資産売却損益 (△は益)	-	△0
固定資産除却損	109	46
営業債権及びその他の債権の増減額 (△は増加)	△1,168	△2,041
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△125	284
生物資産の増減額 (△は増加)	△1,288	△1,361
営業債務及びその他の債務の増減額 (△は減少)	503	1,339
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△0	△11
従業員給付に係る負債の増減額 (△は減少)	45	△572
その他	△144	△467
小計	4,012	3,314
利息の支払額	△125	△115
シンジケートローン手数料の支払額	△3	-
法人所得税の支払額	△959	△1,514
法人所得税の還付額	-	16
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,923	1,702
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,445	△1,298
有形固定資産の売却による収入	-	0
無形資産の取得による支出	△2	△14
その他	△36	49
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,484	△1,262
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の借入による収入	2,000	1,900
短期借入金の返済による支出	△2,000	△1,900
長期借入金の返済による支出	△844	△844
リース負債の返済による支出	△157	△170
自己株式の取得による支出	-	△32
配当金の支払額	△519	△638
その他	△0	△69
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,521	△1,754
現金及び現金同等物に係る為替変動の影響額	0	21
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△81	△1,293
現金及び現金同等物の期首残高	2,797	3,903
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,716	2,609

(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

① 報告セグメント

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会（最高経営意思決定者）が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、製品及びサービスについて、包括的な戦略を立案し、事業活動を展開している「茸事業」を報告セグメントとしております。「その他」は報告セグメントに含まれない事業が含まれております。

なお、まいたけ事業、エリンギ事業及びぶなしめじ事業等は、売上収益の推移など経済的特徴が概ね類似しており、かつ、(a) 製品及びサービスの性質、(b) 生産過程の性質、(c) 当該製品及びサービスの顧客の類型又は種類、(d) 当該製品の配送又は当該サービスの提供のために使用する方法、(e) 規制環境の性質のすべてが類似しているため、「茸事業」として集約してしております。報告セグメントの事業内容は次のとおりであります。

	事業内容
茸事業	まいたけ、エリンギ、ぶなしめじ等、茸製品の製造販売

② 報告セグメント情報

報告セグメントの会計処理の方法は、当社グループの会計方針と同一であります。報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部売上収益は市場実勢価格に基づいております。

前第3四半期連結累計期間（自2024年4月1日 至2024年12月31日）

(単位：百万円)

	茸事業	その他	合計	調整額 (注)	連結財務諸表 計上額
売上収益					
外部顧客への売上収益	26,986	229	27,216	-	27,216
セグメント間の内部売上収益	-	-	-	-	-
計	26,986	229	27,216	-	27,216
セグメント利益（△は損失）	4,297	30	4,327	△16	4,311
金融収益					9
金融費用					181
税引前四半期利益					4,139

(注) セグメント利益（△は損失）の調整額には、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれております。

当第3四半期連結累計期間（自2025年4月1日 至2025年12月31日）

(単位：百万円)

	茸事業	その他	合計	調整額 (注)	連結財務諸表 計上額
売上収益					
外部顧客への売上収益	27,175	287	27,463	-	27,463
セグメント間の内部売上収益	-	-	-	-	-
計	27,175	287	27,463	-	27,463
セグメント利益（△は損失）	4,388	△111	4,276	32	4,309
金融収益					130
金融費用					201
税引前四半期利益					4,238

(注) セグメント利益（△は損失）の調整額には、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれております。

(1株当たり利益)

基本的1株当たり四半期利益及び希薄化後1株当たり四半期利益の算定基礎は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自2024年4月1日 至2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2025年4月1日 至2025年12月31日)
基本的1株当たり四半期利益算定上の基礎		
親会社の所有者に帰属する四半期利益(百万円)	2,689	2,621
親会社の普通株主に帰属しない四半期利益(百万円)	-	-
基本的1株当たり四半期利益の計算に使用する 四半期利益(百万円)	2,689	2,621
期中平均普通株式数(千株)	39,890	39,876
基本的1株当たり四半期利益(円)	67.43	65.73
希薄化後1株当たり四半期利益算定上の基礎		
基本的1株当たり四半期利益の計算に使用する 四半期利益(百万円)	2,689	2,621
四半期利益調整額(百万円)	-	-
希薄化後1株当たり四半期利益の計算に使用する 四半期利益(百万円)	2,689	2,621
期中平均普通株式数(千株)	39,890	39,876
譲渡制限付株式報酬制度による普通株式増加数(千株)	3	2
希薄化後期中平均普通株式数(千株)	39,894	39,879
希薄化後1株当たり四半期利益(円)	67.42	65.72

(重要な後発事象)

該当事項はありません。